

14/Nov.2012

- 07:40 起床、外は珍しく雨。
08:40 ホテルにて朝食。バイクスタイル。Europeanstyle 選択。ベトナム風麺もとれる。
10:49 バイクタクシーを午後5時まで借り上げ、市街地周辺の織物のタイ族の村2箇所を訪れることとする。
10:59 第一の村。昼食は訪問した農家で振舞われる。
14:00 市街地のカフェでベトナムコーヒーで休憩。
14:20 ムオンタイン橋、橋詰の小さなマーケットを見学。
15:00 第二の村
19:00 夕食



↑朝からの雨である。ホテルもまちも。乾季のこの地方にはめずらしい。雨はすぐ上がる。少し待つことにしよう。

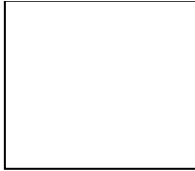


←10:30雨があがった。午後5時までバイクタクシーを借り上げることにする。Police の交通安全啓発が気になり、ホテルフロントに「バイクタクシーは危険か？」と確かめると「no 彼らは slowly に drive する」とのこと。彼らは認可されて営業しているのではない。自由営業。料金交渉が必要。5時まで約800円で契約。ここでもヘッドギアは義務である。臭うのが気になる。



←運転手の一人がタイ族。ラオス語が通じる。まちあるきの途上、ショップやみやげもの店で織物を買っているタイ族の女性から、前もって情報収集していた村々である。タイ族のドライバーが織物を手掛けている女性の住む村を案内してくれることになった。バイクの後ろシートに乗り出発である。細かい雨が時折、降りかかる天気である。路面がぬれている。町には例の横断幕。

村に到着しました。まちのメインストリート（5月17日通り）から入ってすぐのところ、タイ族の集落になっている。



←動画

村の佇まい。高床式の住居に一族が住む。よくお目に掛ける風景。ドライバーが織物が見られる家を探してくれるが、ここでは、今ではあまりやっていない。適当な家がないとのこと。別の村を当ってみることにする。

第一の村



←こうした市街周辺の集落では、同質的な農村集落が徐々に崩壊が始まり勤労者所帯などの混在がみられる。

左端上の農家を訪れた。典型的なタイ族一家である。



↑規模の大きな住居です。織物の作業場は1階左の奥。織物は女性の仕事。一家の女性が集まって来ました。2階は生活空間。大きな一部屋がダイニング、キッチン、リビング、寝室に使われます。寝室は蚊帳風の物で仕切られます。複数の夫婦が寝起きします。ラオスと同じ。

↓二階に上がって、女性たちの織った織物を見る。ここでは織り貯めたものを商人を通して市場にも出荷されているようだ。この居宅の向かいには広い中庭を置いて右端下のような居宅があり、血縁者が集団となって生活している。それらの女性が織った布を持ちより披露する。話がはずむ。



↓伝統的な「せおいこ」孫を背負い実演。



↓中庭には井戸。電動でポンプアップ



↓寝室まで案内して敷きには、例のマットレス。ススキの穂が詰め込まれている。その上に掛け布団。



←一族の女性の皆さんが子供たちとともに集まり、昼食です。ご飯を食べて行けとのこと。例のモチ米のご飯を左手で握り、肉を焼いたもの、野菜を御馳走になりました。この頃にはイネの収穫が終わった農閑期の主人も合流し、酒（自家製の焼酎）を飲みながら交流。



↑動画

集会所で自分たちがダンスを収録したビデオを見せてくれた。民族への誇りか？